

事務事業評価シート 令和 2 年度事後評価・決算

令和 4 年 2 月 10 日時点

事務事業評価シート					令和 2 年度事後評価・決算		所管課		農水産課		担当班	振興班	
事務事業名		コード	23100	園芸用廃プラスチック処理対策事業	予算	会計		款	項	目	事業 種別	☒ 主な事業	
				科目	一般		6	1	3	☐ 国土強靱化地域計画			
施策 体系	基本施策	21	廃棄物の減量化と資源の有効活用		根拠法令								
	施策の展開	43	廃棄物の減量化と資源の有効活用		戦略事業	193	ごみの減量化推進事業						
	施策の展開	1	農畜産物の生産振興		戦略事業								
☐ 新市建設計画													
☐ 定住自立圏構想													
☐ 主要事業													

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 9 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 令和 年度まで	農家が使用済みとなった農業用ビニールやポリエチレンなどの園芸用廃プラスチック(以下、廃プラ)の適正な処理を図ることにより、資源の有効活用、農村環境の保全及び施設園芸の健全な発展を目的としている。ちばみどり各営農センターにおいて農家から搬入された廃プラを取りまとめ、放射線量測定を行い、処理工場(千葉園芸プラスチック加工(株)東金市へ搬入している。(全15回/年)また、処理手数料(40.7円/kg)に対し、補助金が交付されている。千葉県9.8円/kg、旭市10.8円/kg、JA全農千葉9.8円/kg(生産者負担10.3円/kg)	当事業にて処理ができる廃プラはポリオレフィン系フィルムと塩化ビニルフィルムの2種類のみである。そのため、ポリエステルフィルムや硬質プラスチックなどの廃プラも対象として欲しい。【JAより】
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
1997年12月の廃棄物処理清掃法の改正に伴い、農業廃プラの適正処理が義務化され、全国多くの市町村で適正処理対策協議会が設立された。当時の1市3町はちばみどり各営農センター内に園芸用廃プラスチック対策協議会を設置し、市町合併後においても協議会は個別に存続している。	近年、再生処理可能な塩化ビニルフィルムが減少し、焼却処分の対象であるポリオレフィン系フィルムが増加している。焼却処分には処分費用がかかるため、千葉園芸プラスチック加工(株)の経費負担が重くなっている。また、廃プラの不法投棄を防止し、資源の有効利用を図るためには、再生処理における農業者負担を軽減する必要がある。(現在の生産者負担は約1/4である。)	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(2年度の決算)			単位:千円	
1.需要費	27			
2.負担金補助及び交付金	7,218	園芸用廃プラスチック適正化処理対策事業補助金		
② 特定財源の内訳(2年度の決算)			単位:千円	
1.国庫支出金				
2.都道府県支出金	3,436	園芸用廃プラスチック適正化処理対策事業補助金		
3.地方債				
4.その他				

事業費	費目内訳	1. 需要費	千円	27	11	24	27	28
		2. 負担金補助及び交付金	千円	7,277	7,853	8,054	7,218	8,505
			千円					
			千円					
			千円					
	財源	事業費計 (A)	千円	7,304	7,864	8,078	7,245	8,533
		1. 国庫支出金	千円					
		2. 都道府県支出金	千円	3,462	3,736	3,834	3,436	4,050
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円					
	5. 一般財源	千円	3,842	4,128	4,244	3,809	4,483	

前年度増減理由	処理量の減
---------	-------

従事職員数	常時	2	人	最大		人	×		日	=	延べ		人
-------	----	---	---	----	--	---	---	--	---	---	----	--	---

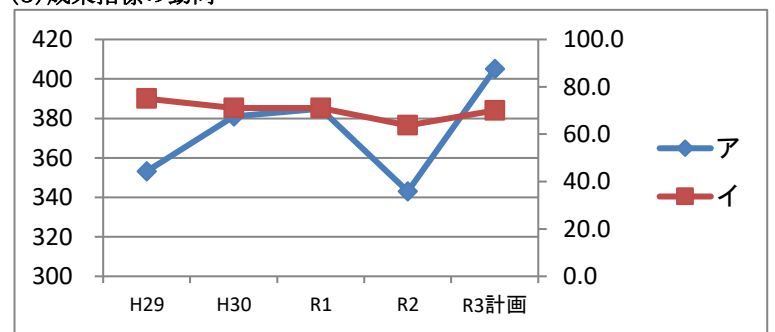
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

① 主な活動		③ 活動指標名	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
手段	2年度実績(2年度に行った主な活動)	ア 廃プラ回収日数	日	15	15	15	15	15
	・補助金の交付 ・処理工場へ廃プラの搬入	イ						
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)		④ 成果指標名	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	1年度(実績)	2年度(実績)	3年度(計画)
目的	対象 園芸用廃プラスチックの適正処理量(旭市)	ア 千葉園芸プラスチック加工(株)への搬入量(旭市)	t	353	381	385	343	405
	意図 農村環境の保全	イ 1年間に廃棄される園芸用の廃プラのうち千葉園芸プラスチック加工(株)へ搬入される割合(旭市)	%	75.0	71.0	71.0	63.7	70.0
	意図 資源の有効活用	搬入量/年間廃棄量 × 100						

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	大きい	成果向上余地	成果優先度評価結果	①	コスト比率
		かなりある			下位 1/3
	普通	ある程度ある		②	中位 1/3
	小さい	ほとんどない		③	上位 1/3
				④⑤	(4)
				⑥⑦	
				⑧⑨	

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況		☐ 完了	☐ 順調	☒ 概ね順調	☐ 停滞	☐ 実施困難
評価内容	【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	数値増=成果向上	数値減=成果向上	比較
	【コメント】(低下の場合、その理由)					
③ 今年度取組事項(3年度に取り組む主な事項について記載)		時期	内容	今後の方向性		
		年度内	補助金の交付 処理工場へ廃プラの搬入	年度内	現状維持 廃止・休止	見直し その他()